

第 156 回 第一次世界大戦②

1 第一次世界大戦と東アジア

・第一次世界大戦において日本は、1914年に日英同盟を口実にしてドイツに宣戦布告して参戦し、中国におけるドイツの拠点である膠州湾の（ ）、オセアニアのドイツ領（ ）を占領した。



袁世凱

これで袁世凱の人気は急落した。直後に帝政を宣言したが、猛反発を受けて取り消しとなった。

・1915年、日本は、（ ）を（ ）政権につけつけて承認させたため、中国の対日感情は急速に悪化した。

2 第一次世界大戦の特徴

・第一次世界大戦が長期化するなかで、各国は国力の全てを戦争にかたむけていき、戦争は（ ）となった。

・政府は（ ）体制を取り、与党と野党の区別なく戦争に協力した。

※イギリスのロイド＝ジョージ内閣やフランスのクレマンソー内閣など

→帝国主義による戦争に反対していた社会主義組織の（ ）は、各国の社会主義政党が戦争に協力したため事実上崩壊した。

・第一次世界大戦では、（ ）・（ ）・（ ）・（ ）・（ ）などの兵器が使用され、多くの死傷者を出した。



機関銃

ヴィッカーズ社製の機関銃を構えるイギリス兵。突撃してくる兵士をなぎ倒した。兵士がガスマスクをしていることにも注目。



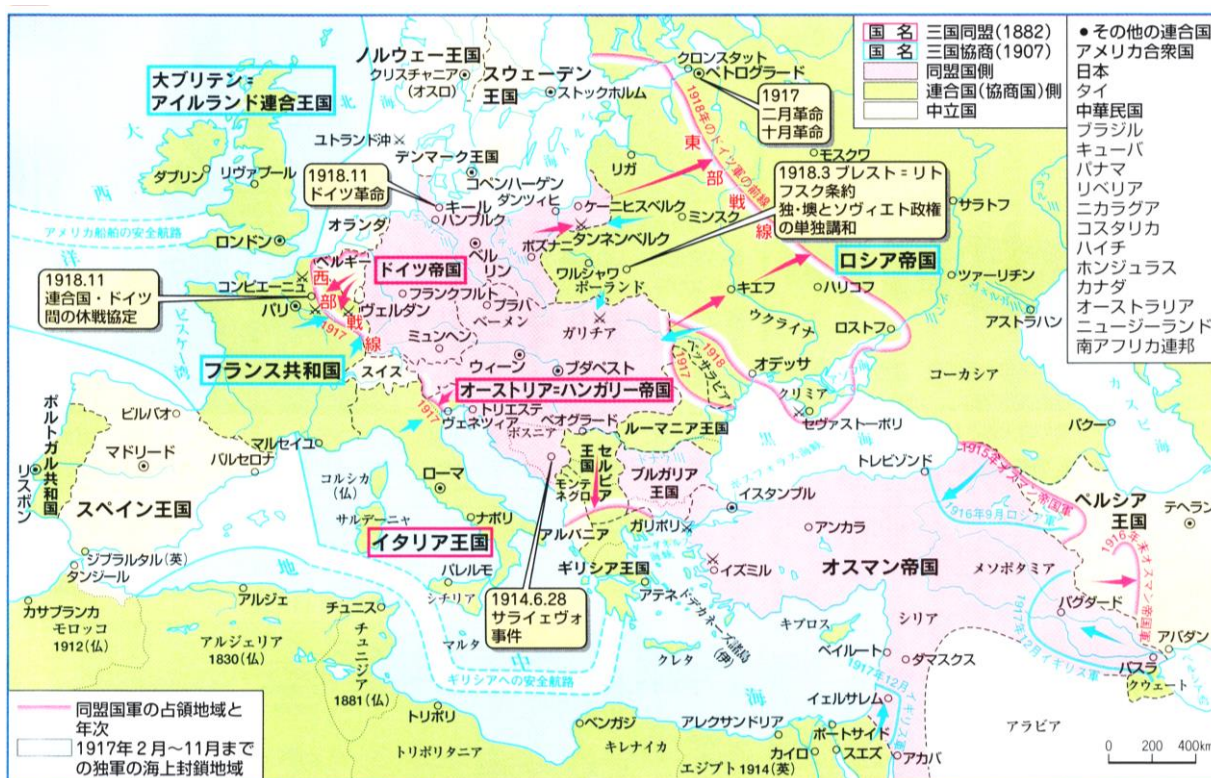
毒ガス

毒ガスはイーブルの戦いでドイツ軍によって初めて使用された。写真は毒ガスによって失明したイギリス兵。



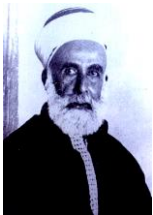
イギリス軍の戦車マーク I

戦車(タンク)は、塹壕を突破する最終兵器としてイギリス軍により開発された。なぜか海軍による開発である。



<第一次世界大戦時の国際外交>

- 各国は自分の側を有利にするため、秘密条約を盛んに結んだ。
→1915年、「」問題によって、三国同盟に属しながら参戦せず中立を守っていたイタリアは、()で協商国側についた。
- イギリスは、1915年に()でアラブ人に戦後の独立を認めることで、同盟国側のオスマン帝国に対して反乱を起こさせた。
→しかし1916年の()でフランス・ロシアと分割する約束もしていた。
→さらに1917年の()によって、ユダヤ人にも独立の約束をしており、現在も混乱が続く中東問題(パレスチナ問題)の原因となった。



フセイン



マクマホン

フセインは預言者ムハンマドと同じハーシム家の出身で、アラブ独立運動の指導者であった。イギリスの外交官マクマホンは、オスマン帝国に対する工作を行っていた。



アラビアのロレンス

フセイン=マクマホン協定の後、アラブ人を支援するためにT.E.ロレンスという人物が送り込まれた。これが有名なアラビアのロレンスである。



イギリス外相バルフォア

イギリス外相バルフォアは、ユダヤ財閥ロスチャイルド家の当主へ、ユダヤ人国家の設立を約束する手紙を送っていた。

3 第一次世界大戦(後半)

- 1916年、西部戦線のドイツ軍は、フランス軍の()要塞を強襲した。
→ペタン将軍率いるフランス軍はこれを守り抜いた。
- 1916年6月に始まるソンムの戦いで、イギリス軍により初めて戦車を使用した。

- 1917年2月、劣勢となったドイツは()を開始した。
→中立国であった()が4月に参戦する口実となった。

- 1917年、アメリカは、日本と石井・ランシング協定を結び、日本の中国における権益を認めた。

- 1918年、アメリカ大統領()は、()を発表した。
→()、()、関税障壁の撤廃、軍備縮小、()、植民地問題の公正な解決、()などを主張した。



ウヅロー=ウィルソン
ルシタニア号事件を口実に、第一次大戦に参戦した。

- またソヴィエト政権となったロシアは、1918年、()でドイツなど同盟国側と単独講和を結び、戦線を離脱した。



フランスのペタン将軍

ヴェルダン要塞を守りぬいたことにより、ペタン将軍はフランスの英雄となった。しかし後にその名誉を自ら汚すことに…。



ドイツの潜水艦Uボート

ドイツの潜水艦Uボートは、敵の輸送船の攻撃などで大きな成果をあげ、「灰色の狼」と恐れられた。大戦を代表する兵器である。



ルシタニア号の沈没

イギリス船籍の豪華客船ルシタニア号は、1915年にUボートの無警告攻撃で沈没した。これで123人のアメリカ人が死んだことは、参戦の大きなきっかけとなった。